

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2393000415		
法人名	社会福祉法人志楽園福祉会		
事業所名	グループホーム猿投の楽園		
所在地	豊田市加納町向井山9-1		
自己評価作成日	令和元年 8月17日	評価結果市町村受理日	令和元年11月 6日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action=kouhou_detail_022_kani=true&amp;jiyosyoCd=2393000415-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action=kouhou_detail_022_kani=true&amp;jiyosyoCd=2393000415-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 中部評価センター		
所在地	愛知県名古屋市長区左京山104番地 加福ビル左京山1F		
訪問調査日	令和元年 9月21日		

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入所後も、ご家族には気兼ねなく来所頂けるような環境・関係構築に努めている。そのうえでご利用者ご家族の関係が維持できるよう、状況に応じて支援の協力をお願いしている。また外泊や入院による今後について等、ご家族の不安に対しては都度、ご相談頂ける機会を設け対応している。ご利用者様の日常生活において必要以上の介護とならないよう、ご自分で出来ないところを支援する考えのもと進めている。

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

法人の定期異動によって管理者の交代があった。前管理者から新管理者に向けたはなむけの言葉は、「自分のやりたいようにやりなさい。」であった。その言葉を受けた新管理者は、前管理者時代の支援を継続しつつも、新たな風をホームに吹き込もうとしている。「職員の意見で支援の方向を決める」と、チームワーク重視の方針を打ち出し、様々な職員意見を取り入れて支援の膠着・形骸化を防ごうとしている。新管理者の前向きな姿勢に期待が高まる。  
利用者や家族の意見・要望にも耳を傾け、毎月発行されているホーム便りは、利用者の発案によって「いちじくだより」と名付けられた。家族も協力的で、企画外出の遠出の際には現地でも合流し、利用者と一緒に楽しむ家族もいる。

### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ユニットに理念を掲げており、職員は理念に基づいて実践できるよう、日々業務を行っている	ホーム独自の理念を作成し、各ユニットに掲示している。正規職員は理念につながる個人目標を設定して取り組み、パート職員は全体目標として設定された目標の達成に向けて取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事には参加出来るようにしている	利用者が地域の交流館祭りやふれあい祭りに参加する際には、係(担当者)が座席を確保してくれる。中学生時代に体験学習で訪れた高校生が、今ではボランティアとしてホームを訪れている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症カフェ等に参加し、地域の人々の理解を得るようにしている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議にて話し合いを行っている	毎偶数月に運営推進会議を開き、年間6回の開催である。家族代表、地域包括支援センター職員、区長、民生委員児童委員、医療機関スタッフ等、多彩なメンバー構成で、効果的な会議運営が行われている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	管理者が執り行っている	地域包括支援センター主催の認知症カフェに協力し、年間6回の開催を後押ししている。市から案内のある研修には積極的に参加し、職員の意識の高揚を図っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修・委員会等に身体拘束をしない環境を作っている 身体拘束をしないようケアを行っている	法制化に伴い「身体拘束廃止委員会」を組織し、毎月委員会を開催している。委員会では2ヶ月ごとに具体的な目標を設定し、ホーム会議で職員周知を図っている。「接遇のチェックリスト」を使用しての振り返りも有効に機能している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	接遇委員会にて虐待防止について話をしている。スピーチロックなど。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	未だ取組めていない		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者が、ご家族・ご利用者様と立会いのもと、行い理解・承諾をもらっている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	管理者・リーダーが家族様との関わるを持ち対応している 玄関に意見箱を設置し、要望等を入れてもらえる機会を作っている	家族の意見・要望を聞き取る機会として、年に2回の家族会があるが、家族の来訪時にも積極的に職員から声掛けをして聞き取っている。ホーム便りは、利用者の発案で「いちじくたより」と名付けられた。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	グループホーム会議等で意見や提案を聞く機会を設けている 課題が出て場合は次回までに改善し意見交換を行う	職員の雇用は安定しており、管理者の異動・交代はあったが充実した支援が継続している。新管理者は、「職員の意見で支援の方向を決める」と、チームワーク重視の運営方針で臨んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者が職員一人一人の実績を把握し行っている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	随時必要とされる研修の促しまた、施設内研修も行っている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	豊田市グループホーム分科会に参加し、同業者との交流の機会を設けている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご利用者が困っている際や話を聞く際は、傾聴し接するようにしている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族から依頼などあった場合も耳を傾け、お話を聞くようにしている また、利用者様の近況報告の連絡を取り関係作りに心がけている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	最初の面談などご利用者のサービスで必要なものを見極め、サービスが利用できるよう努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者一人一人にあった生活ができるよう関係を築いている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご利用者ご家族の絆を大切に、面会などの機会を設ける		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会でご友人などみえた際は、関係が途切れないよう接して頂く機会を設けている	古くからの友人や宗教関係の友達が利用者を訪ねている。ホームの利用者が隣接の特養に移ってしまい、仲の良かった利用者が時々面会に出向いている。家族からの手紙を心待ちにしている利用者もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ユニットのご利用者一人一人が孤立しないよう、ご利用者同士の関わりに職員が入るようにし支えるようにしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご利用者がグループホーム対象でなく、特養の方に行かれたとしても、これまでの関係性を大切にして接している		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケアマネジメントするなかで、ご利用者に意見や思いを聞き、ご利用者本位に検討するようにしている	利用者自身が「自分でできていると思っていても、現実にはできない」ことを支援しようとしている。夕方になると気分が滅入ってくる利用者があり、その気配を感じた職員は、すかさず利用者を散歩に連れ出している。	利用者の思いや意向を把握したときの、「書き留める」ルールが明確になっていない。職員の記憶に頼らず、記録に残すことを期待したい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご利用者の生活歴や馴染みの暮らし方を大切に、生活して頂けるような環境を作っている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご利用者の生活リズムを作り、現状の把握に努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご利用者の課題など、ご利用者・ご家族も一緒に話し合いをし計画作成をしている	利用者自身が介護計画の内容を把握して確認のサインをしており、実に7割にのぼる。定期的な見直しは短期6ヶ月、長期1年で行っており、状態変化に伴う見直しも行われている。ADL中心の介護計画である。	利用者の思いや意向を把握し、介護計画に取り上げて叶えてほしい。利用者の思いの変化に着目した見直しも、見直し機会の一つとして実施することが望まれる。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子のケア記録は毎日記入し、情報共有を行って、計画見直しに役立っている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日々のご利用者の状況で対応できるよう心掛けている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご利用者一人一人が自分の力を発揮できるよう支援している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医のある方は、ご家族と一緒に行って頂いたり、以外の方は往診医で月2回かかっている。	ホーム協力医の定期訪問(往診)が月に2回ある。これまでのかかりつけ医を利用する場合は、家族に付き添いを依頼している。協力医に併設された訪看ステーションと契約し、医療連携体制を構築している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	グループホームに看護職員はいないが、往診医や併設看護職員と密に連絡を取り、連携を行っている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご利用者が入院された際は、管理者等が様子を見に伺い、病院看護師等から情報を頂くようにしている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期のあり方については、ご家族に延命を望むか等、事前に聞いている	管理者は、職員の介護力量の不足を理由として「ホームでの看取りをしない」方針である。利用開始時に利用者、家族に方針を説明して同意を得ている。要介護度が3になると、家族に特養への申し込みを依頼している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ご利用者の急変事、事故発生時に関しては、併設看護職員と連携が出来るようにしている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練を行い、火災や地震対策を行うようにしている	複合施設全体の防災訓練に年間2回参加し、ホーム単独でも行っている。職員が作った防災頭巾が利用者全員分揃っており、ライトやランタンも備えてある。複合施設(特養)が福祉避難所の指定を受けている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の人格を尊重し、ご利用者の気に障らないよう声掛けを行っている	利用者のプライバシーには、最大限の配慮をしている。そのため、「接遇のチェックリスト」を活用して、職員一人ひとりの意識を高めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の生活で本人の思いが発せられるよう、自己にて決められるようサービスを行っている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員側でのサービスの提供にもなってしまいがちになるが、ご利用者のペースを大切に、希望に沿うようにしている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご利用者の好む格好や身だしなみをして頂くようにしている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご利用者と一緒にご飯やお汁をよそったりしている	ご飯はホームで炊くが、その他は複合施設の共同厨房で調理した食事を提供している。誕生日会のおやつ作り、毎月のお菓子作り等の楽しみがある。交流スペースでは、居酒屋やバーベキュー食事会が開かれる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士と連携し、一人一人にあった食事(形態)を提供している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの声掛けを行って頂けるよう促している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の排泄パターンを周知し、トイレでの排泄を心掛けている	「排泄チェック表」を記録し、適切な声掛けや誘導によって失敗のない排泄を心がけている。利用者の自立度が高く、基本としている「トイレでの排泄」が実現している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘にならないよう体操や散歩等を行い、個々に応じて予防するようにしている 往診医と連携しお薬の対応も行っている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一人一人の入浴時間にあわせて入浴して頂くようにしている。週2日は入って頂けるよう心掛けている	男性と女性利用者の入浴日を交互に設定しており、週に2回の入浴を支援している。異性介助を嫌う利用者には同性介助で対応し、全員が湯舟での入浴を楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人にあわせて身体が休めるよう支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人一人の薬を服用する内容を理解し、症状の変化などの確認に努めている 往診医との連絡・報告・相談を行っている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	気分転換が図れるよう外出をしたり、散歩したり、好きな食べ物を作る機会を作っている 個々に合った役割を作って支援している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	「外に出たい」とおっしゃられるご利用者がみえたら、車に乗って外へ出たり、喫茶店など行ったり出掛ける環境を作っている	天候を考慮しての散歩は日課となっており、ホーム周辺の四季を感じながらの散策である。喫茶店へ全員で出かけたり、企画外出として遠出をしたりしている。その際に、家族が現地で合流することもある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	理美容や外へ出かけた際、ご自分のお財布から出して支払って頂ける環境を作っている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族様に連絡を取り合い利用者様とお話できる環境に努めている 携帯をお持ちの方は 自ら連絡を取りお話しされている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご利用者が作った作品を飾ったりして工夫している	毎日「掃除タイム」がある。利用者と職員が協力して共有空間と居室を掃除し、清潔を保っている。複合施設の交流スペースが有効に活用されており、利用者の体操会場として使われたり、居酒屋やバーベキュー食事会が開かれたりしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ご利用者が気の合った方同士で思い思いに過ごせる場所を作っている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の家具は使い慣れたものを使ってもらえるよう、持ち込んで頂いている	持ち込み量の少ない居室が多いが、利用者個々の状態に合った居室づくりを支援している。転倒が心配な利用者の居室には、クッションマットが敷いてある。位牌の前に、花や水、おりんが置かれた居室もある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご利用者が自立した生活が送れるよう、ご自分でできる事はご自分で行って頂くようにしている		

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2393000415		
法人名	社会福祉法人志楽園福祉会		
事業所名	グループホーム猿投の楽園		
所在地	豊田市加納町向井山9-1		
自己評価作成日	令和元年 8月17日	評価結果市町村受理日	令和元年11月 6日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action_kouhou_detail_022_kani=true&amp;JiyosvoCd=2393000415-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action_kouhou_detail_022_kani=true&amp;JiyosvoCd=2393000415-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 中部評価センター		
所在地	愛知県名古屋市長区左京山104番地 加福ビル左京山1F		
訪問調査日	令和元年 9月21日		

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・認知所予防の為 1日一回は予防体操(指や手を動かしながら体操・歌を行なう)
--

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

#### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	各ユニットに理念を掲げ、毎朝の朝礼でも皆で声に出して共有している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	夏祭りや観桃会、ふれあいまつり等、季節毎に地域行事に参加できるよう行事のレクに取り入れている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	併設の地域包括支援センターが行なっている「認知症カフェ」への参加をしているがより多くの地域の方への参加は今後の課題であると思われる。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では施設内の取り組みや情報を隠さずオープンにすることで外部の出席者から意見をいただいて今後に活かしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村担当者とは事業所の現状を伝えながら相談できる関係を作っている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎月、委員会にて身体拘束について話し合い、それを議事録に落とし込み職員全体で情報共有できるようにしている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日々のニュースで他施設で起こった事故・事件はコピーを配布し職員全員が目を通すようにしている。また管理者は講習を受け職員への指導を行い防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者が講習を受け職員に周知させているが活用までは未だ至っていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約等に関しては管理者からご家族様へ細かく説明させて頂いている。またその際、ご家族様のご理解を得て行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者様・ご家族様からのご意見には耳を傾け、運営に反映できるよう努めている。また施設玄関に意見箱の設置を行っている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月例会議にて意見や要望を聞く機会を設け、反映できるよう努めている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回、代表者との面談を行っている。その際、職員の自己採点シートを活用し目標を持って仕事をするように進めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の参加を促しているがなるべく職員自らが進んで研修に参加することを望んでいる。また研修に行った職員は研修後グループホーム会議で講義をして職員に広めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	豊田市グループホーム分科会等に参加し同業者との交流・意見交換、勉強会への職員参加等、質の向上に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人様・家族様の希望をお聞きし、それをプランに反映させている。また本人様の不安を少なくすることで施設が本人様にとって居心地の良い場になるように心がけている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	聞き取りの時に家族様にもお話を聞きプランに反映させている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	その方に合った優先順位を考え、何を必要とされているのかを話し合い、そのサービスを入れることで、より良い形に出来るよう支援させて頂いている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	顔なじみの関係を築くことで入居者様が職員に対して構える事なく暮らしを共にする者同士の関係を築けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人様と家族様との関係を大切に考え、入居されてからも良好な関係を維持できるよう職員が間に入り日常の様子をお伝えするほか、何かあればすぐに連絡・相談するようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人・友人とのなじみの方との交流が途切れないよう、面会・外出等の要望には実現できるよう協力し対応している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	毎日一緒に生活を送られる方々であるため、より良い関係が築けられるよう必要であれば職員が間に入りながら対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用(契約)終了以降も必要に応じて相談・支援できるよう、入居者様・ご家族様との関係作りに努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個々の望みに少しでも近づくよう傾聴し思いを聞けるよう対応している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	施設生活だからとこちらの生活を押し付けず、その方々のそれぞれのペースに合わせ、より良い環境のもとで支援できるよう職員同士で協力し対応を日々検討している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員一人ひとりが何か気になることがあれば、その都度、管理者や周りの職員に相談・報告を行っている。支援の方法は職員で共有するようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族、必要な関係者が話し合える機会を設け意見やアイデアを反映できる介護計画の作成に努めている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子は個別記録に残し職員はそれを確認の上、業務にあたっている。特にいつもと違ったことがあれば詳しく残し介護計画の見直しや更新時に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	既存のサービスに捉われないよう、その時々々の要望に応じて柔軟に対応できるよう考え努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の把握はまだ足りないものの本人様の心身の力が発揮でき安全で豊かな暮らしが出来るよう支援に努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の希望を第一に考え往診医もしくはかかりつけ医にて受診できるよう支援している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	往診医ならびに併設事業所の看護職員に相談等をし適切な受診が出来るように支援を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時は管理者がその医療機関に行き、担当医師・看護師をはじめ多職種と情報交換をする等、関係作りを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時、定期的および状態に応じて話し合いの上で、重度化した場合や終末期の対応に取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	グループホーム会議のミニ講習にて急変時の対応等について行ったがそれを忘れないよう定期的に行うことが出来ておらず今後の課題である。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な避難訓練を行っているが地域との協力体制については未だ構築できていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様の人格を尊重し人生の先輩である皆様に敬う気持ちで声掛けし対応に努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人様が自己決定できるような声掛けを心がけて対応している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	どこかで集団生活だからと皆で何かやることが多いように感じる。もちろん外に洗濯物を干せる方はお手伝いしてもらうなど気分転換を兼ねて別の事を支援することはあるが今後の課題でもあると思う。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎朝、整容して頂きご自身で洋服を選んで着ていただいている。男性の方の髭剃りの声掛け、対応が出来ていない事がある。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎食、厨房より作られたものを提供している為、レク委員会で昼食を作って提供する際は入居者の方にアンケートをとって普段の食事では摂れないものを作るようにしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分摂取量のチェックはその都度行い、日中1～2時間おき程度に水分提供を行っている。お茶・コーヒー・紅茶以外にも夏場はスポーツドリンクを取り入れ、味を変え、なるべく水分を摂って頂けるように工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアは必ず行って頂いている。基本的に本人様に口腔ケアをして頂いている為、毎日口の中まで見せて頂くことはないため個人差はあるため、定期的にチェックさせて頂く形を取っても良いのかも知れない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表にて毎日排泄パターンの把握に努めトイレでの排泄を支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取を勧め、軽度な運動などで出来る限り薬に頼らないように努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	日中の入浴で曜日で分けてはいるがその方の体調や気分が合わなければ無理に入って頂くことはせず別の日に対応する等してゆっくり入って頂けるように心がけている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動を有意義なものにすることで夜間に向け、良質な睡眠へ導けるように出来る範囲で行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	往診後など薬の変更があった場合には職員が同じ情報が共有出来るよう対策を取っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人様方のできる範囲で無理が無いようにお手伝いして頂いている。その方々の得意な事をそれぞれにお願いしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	出かけること＝特別な事としてあり皆で一緒に出かけることの方が多い。ごくまれに一人の方にお買い物を手伝って頂くことはあるがこちらは今後の課題でもある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人様をご自身のお金を使える大切さを職員は理解しており外出の際は入居者様が直接お金を所持したり使えるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者様個人で所有されている携帯電話での通話をもとより依頼に応じて家族や友人・知人への連絡対応にも努めている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	生活の中で入居者の皆様で共有スペースで季節感ある作品作りを行い飾って頂くことでご自分たちの空間作りへとつなげている。また特に不快になるような刺激等はないと思われる。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	日中9時～18時まではグループホーム玄関の施錠は行っておらずオープンにしている。共有空間は狭い中でもくつろいで過ごせる空間作りが今後の課題である。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	個人差は有るものの本人様の使い慣れた物品等を持ち込んで頂き安心して生活できる空間になるよう努めている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの生活行動の中で安全でかつ出来るだけ自立した生活となるよう生活動線においての設備の位置等には配慮している。		